3

第１回振り返りと
野洲川MIZBEステーションの運営の目的

第１回検討会の議論の振り返り（大切にしたいこと、期待すること）

※レイアウトについては現在検討中であり、今後変更となる場合があります。

どんぐり広場・森林ゾーン

- **豊かな自然を守ってほしい、維持したいという思い**
- **自然にふれ合う機会が少ない中で貴重な場**
  - 遊具よりも、子どもたちが自分で考えながら遊べることが大事
  - 高木があり木陰がある涼しい森
  - 昆虫や動物に出会いながら探検できる森

水防センター（建物）

- **地域の拠点を作ることによって人々がつながる場が生まれる**
  - イベントやさまざまな用途に柔軟に対応できる
- **防災は重要なキーワード**
  - 高専との協働でテクノロジーを使った防災の学び

情報発信

- 情報集約できる広報の仕組み
- さらなる市民への周知・普及

ハード

- **安心・安全に過ごせる**
- **活動に利用しやすい設備が整う**
- バリアフリー等の福祉の視点
- 夏の暑さ対策
- 屋根下に何人滞在できる、トイレが十分にある、照明がある
- どの季節も行きたくなる魅力を

スポーツ施設・グラウンド

- **地域で子どもたちを育てたいという思い**
  - 点在するスポーツ施設を一つに拠点化することは大切
  - 部活動の地域移行
  - 高専との連携は非常に重要
  - 野洲川河川公園との複合的な視点

全体について

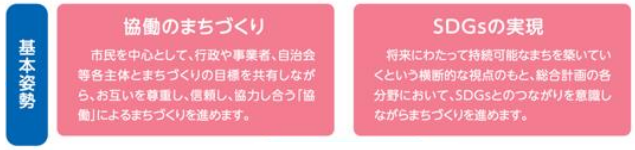
- **持続可能で未来へつなげること**
- **今の視点だけでなく、子どもや孫の世代にとってどんな場所になっているかという未来に向けた視点を**
- **心地よさを感じ、住みたいと思えるまちの魅力に**
  - 集客が見込めるかどうか
  - 地域で活動している団体が集まり、市民が自然と集まる場
  - 独自性・新規性・斬新さが重要

野洲川・水辺広場

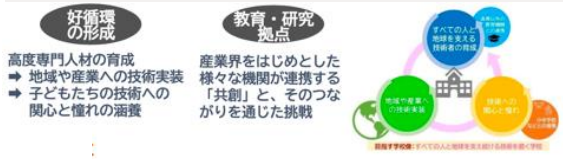
- **森、広場、水辺がつながり身近な自然にふれ合える**
- **川の怖さと楽しさを両方学べる**
- **危険を回避するだけでなく、体験を通じて身をもって学ぶ**
  - 河川環境の面白さを活かした学びのプログラムがある
  - コンクリートでなく自然を感じられる魚道に

野洲川MIZBEステーションの目指すところ

野洲市総合計画



滋賀県立高等専門学校 基本構想2.1



野洲市 MIZBEステーション かわまちづくり計画

(1)地域資源を活用した観光振興を促進
(2)激甚化する台風等の自然災害への対応
(3)自然とふれあえる空間の整備
(4)人材の育成支援促進

野洲川MIZBEステーションの目指すところ

市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点

①出会い
野洲川と多様な人に出会い学ぶ

- 市民と**野洲川との接点**となる場所
- **市民同士の出会い**・交流・賑わいを通し学び合う場所
- **外の人が野洲を訪れ**、野洲を知る、野洲の人・自然と交流・楽しみ・学びを得る場所

②自然
野洲川の自然に学ぶ

- **川と森**の自然を体感し、学び、育む場所
- 自然・環境・生物などの**市民活動の拠点**となり**人材育成**、学び合う場所

③防災
自然の営みと防災を学ぶ

- 森の管理、川の安全・安心、身近な**防災を学ぶ**場所
- **河川防災ステーション**・**地域の防災教育拠点**

野洲川MIZBEステーションができることで

子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる

第１回検討部会のキーワード：持続可能・未来につなぐ／子ども・孫まで残したい／ここにしかない／住みたいと思える

運営の目的

◆ 野洲川MIZBEステーションを「市民とともにつくる、人と自然の好循環を育む『学び』の拠点」とし、子どもや孫の世代も野洲市に住みつづけたくなる野洲市を実現するために、次の３つを目的として運営することが大切だと考えています。

〈目的１〉
人と情報が集まり
多様な活動の輪を
広げる

〈目的２〉
自然や防災、スポーツ
を通じて学び
次世代を育てる

〈目的３〉
ここにしかない
魅力があり
まちの内外から
人が集まる